第 58 回土木計画学研究発表会・講演集

高校生のまちづくり学習による 自己成長とキャリア形成に関する調査研究

宇佐美　誠史[1]・高屋　智未[2]

[1]正会員　岩手県立大学総合政策学部准教授　（〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52）
E-mail:s-usami@iwate-pu.ac.jp

[2]非会員　岩手県立大学総合政策学部4年生（〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52）
E-mail:g041p304@s.iwate-pu.ac.jp

教育現場において，地域人材の育成やキャリア形成を図ろうとして，若者のまちづくりへの参画を促進させている事例が多々見られる．「まちづくり学習」のような地域に着目した学習プログラムは，人材育成だけではなく，地域活性化や地域課題の解決に効果があると考えられる．本研究は，岩手県盛岡市内の商業系学科の高校生を対象として，著者らの「まちづくり学習」を受講してもらい，地域への関心が高まったか，自己成長を実感したかなどを把握し，自分の能力を活かしながら地域に貢献できる人材育成の重要性を検討した．その結果，進路選択において地域貢献を視野に入れている生徒は，自分のやりたいことをおこなったり，自分の能力を活かしたりするなど，自己実現させることを重視していることがわかった．

Key Words : *high school student, community planning, career formation, self growth*

1.　はじめに

教育現場において，まちづくりへの参画を促進させる動きがみられる．2002 年から導入された「総合的な学習の時間」を活用し，「まちづくり学習」が実施され，様々な地域活動に接する機会となっている．中川らによると [1]，まちづくり学習は，”将来におけるまちづくりの市民参加を促し，それによる地域力向上を目指している．そのため，まちに対する関心や注意の喚起・まちづくり参画への意識と質の醸成・地域への愛着を育むこと”がまちづくり学習の目的とされている．

まちづくり学習を題材とした先行研究について，1990 年代以降，三輪らを中心に，小学校におけるまちづくり学習のあり方 [2] や，中学校教育における総合的な学習の時間へのまちづくり学習導入に向けた研究 [3] が行われていることがわかった．これらの研究により，〈行政-学校-地域〉三者一体となった取り組みが，まちづくり学習の実施において，大きな可能性を持っていることが明らかとなっている．

2002 年以降，総合的な学習の時間の導入に伴って，総合的な学習の時間等におけるまちづくりを題材とした研究があり，教育の中にまちづくりを連携させることの有効性が示された [4]．また，総合的な学習の時間における子どもを対象とした研究だけでなく，人口１万人以上の自治体が開催したまちづくりリーダー・コーディネーター養成講座を対象に，まちづくり学習の効果と課題を明らかにする研究がある [5]．

まちづくり学習に関しては，義務教育課程の児童を調査対象としている研究が多く，中学生・高校生・大学生を調査対象にすることが課題として指摘されている [6]．これは，義務教育課程が，国民全員が受けるものであることや，高等学校教育における総合的な学習の時間が，まちづくり学習以外の目的で利用されているためであると考えられる．また，まちづくり学習は，まちづくりへの市民参加の促進や地域への愛着の醸成などを目的としているが，それが自己成長や進路選択に影響を与えているかを明らかにしている研究は見られない．進学するか就職するかの選択をする時期である高校生を対象とした研究が求められているのではないだろうか．

2.　研究目的

キャリアの形成において，「自己能力が活かせること」「自己実現できること」などが求められるだろう．そして，現在は，「地域との関わり」についても注目を集めている．岩手県内では，文部科学省の補助事業のひとつとして，2015 年度から，県内の大学が地方公共団体や企業等と協働して，「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を展開している．ふるさといわて創造プロジェクト [7] は，地域をフィールドとした学習

を通して，「学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに，その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組みを支援することで、地方創生の中心となる『ひと』の地方への集積」を目的としている．

このように，地域に着目した学習プログラムは，地域人材の育成により，地方活性化や地域の課題解決への効果をもたらすことが考えられるだろう．

本研究は，「まちづくり学習」を受講した高等学校の生徒が地域への関心が高まったか，自己成長を実感したかを明らかにし，自分の能力を活かしながら地域に貢献できる人材を育成することの重要性を明らかにする．

3. 対象となる高校と授業概要

岩手県盛岡市内のA高校の商業系学科において，2ヵ年度前から3年生約80名が受講する「課題研究」の授業を活用し，盛岡市内のまちづくりにおける課題を，いくつか取り上げて調査研究を行い，結果を市に報告している．筆者らは，A高校からの依頼を受けて，初年度の途中から参画している．

昨年度は，平成29年度4月に，4つの大きなテーマ「大通り商店街」「市の公共施設」「公共交通」「肴町界隈」を示し，20グループがそれぞれ選択，その後，個々に調査研究を実施した．その後は，進捗状況に応じて，1月の発表会までに5回の授業（1回あたり，50分@3コマ）を行った．内容は，資料収集，現地調査，アンケート，プレゼン資料作成についての解説と進捗状況のチェックである．

なお，日々の生徒達への指導は，高校の教員が著者らと相談しながら進めた．

4. 調査概要

2018年1月22，23日に，各グループが1年間の調査研究結果を発表した．その発表会後に，「『課題研究』で行った『まちづくり学習』に関するアンケート」を実施した．調査対象者はこの授業を受けた75名の生徒である．調査項目は，主に①自己成長についての評価，②地元やまちづくりに対する意識，③進路選択についてである．

図-1に回答者の住んでいる市町村，**図-2**に住んでいるところの居住年数，**図-3**に卒業後の居住地域，**図-4**に卒業後の進路を示す．回答者は盛岡市に居住している生徒が最も多い．回答者のおよそ7割が，10年以上同じ地域に居住していた．卒業後は，盛岡市に居住を予定している回答者が半数であり，専門学校への進学が最も多い結果になった．

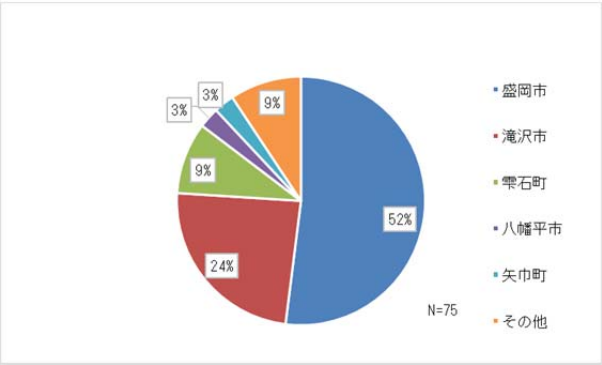

図-1　回答者の住んでいる市町村

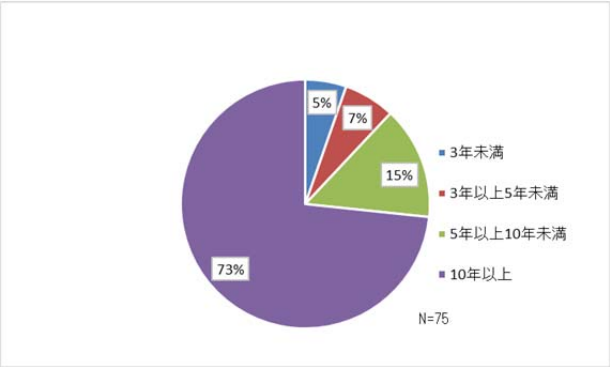

図-2　住んでいるところの居住年数

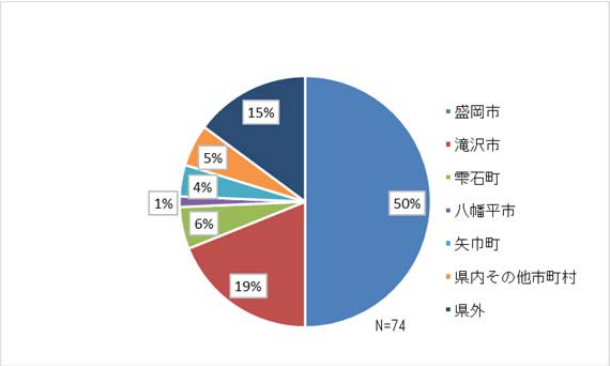

図-3　卒業後の居住地域

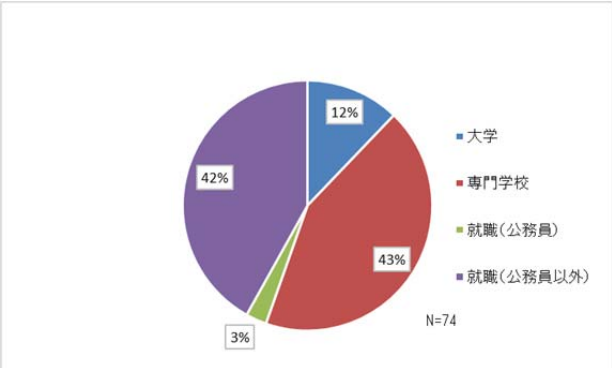

図-4　卒業後の進路

5. 調査結果

(1) 自己成長について評価

図-5は，身の回りの物事に対して問題意識が持てるようになったかどうかを示している．およそ8割の生徒が、問題意識を持てるようになったと回答していることがわかる．図-6は，情報収集能力が身についたかどうか，図-7は，周りの意見や考えを聞くようになったかを示している．いずれも「そう思わない」と回答する生徒がみられないという結果が得られた．図-8に，自分の考えを相手に伝えられるようになったかどうかを示す．およそ7割の生徒が「そう思う」と回答していることがわかる．

(2) 地元やまちづくりに対する意識

図-9に授業を受ける以前までまちづくりについて関心があったかどうかを示す．ほとんどの生徒が関心がなかったことが読み取れる．図-10に授業を受けて地元が好きになったかどうかを示す．およそ5割の生徒が好きになったと回答する一方で，変わらないと回答する生徒が4割以上いた．図-11に授業を受けて，地元のために活動をしてみたくなったかどうかを示す．およそ8割の生徒が，授業を受けて，地域のために活動したいという意識が生まれたことがわかる．

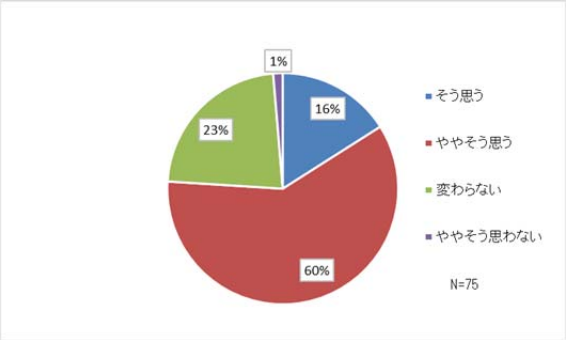

図-5　身の回りの物事に対して問題意識が持てるようになったか

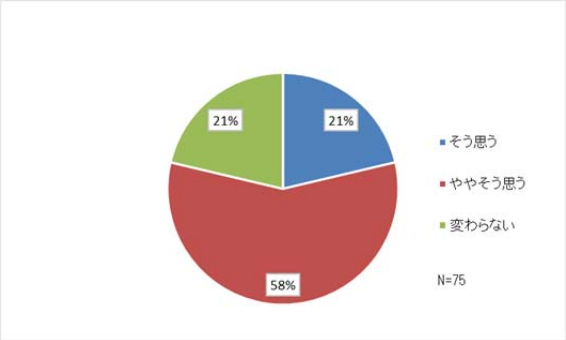

図-6　情報収集能力が身についたか

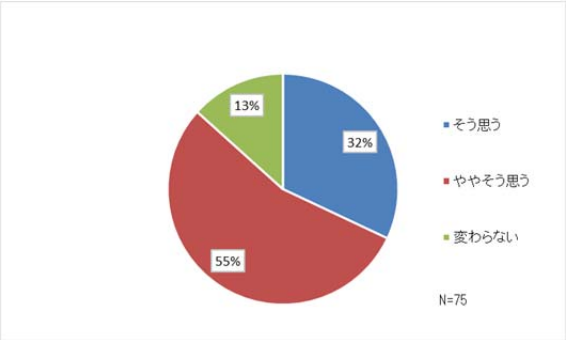

図-7　周りの意見や考えを聞くようになったか

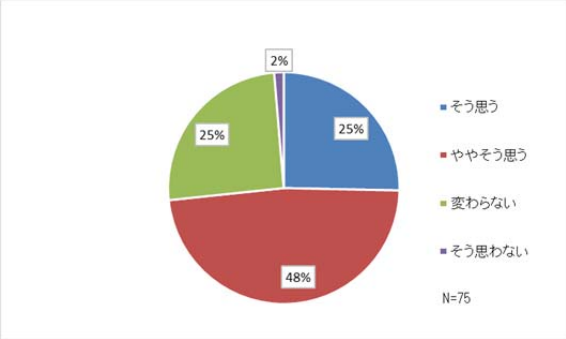

図-8　自分の考えを相手に伝えられるようになったか

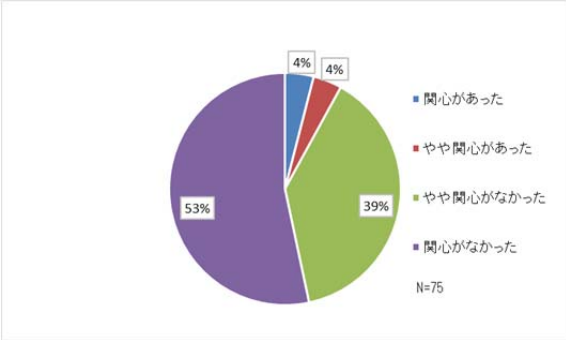

図-9　まちづくりについて関心があったか

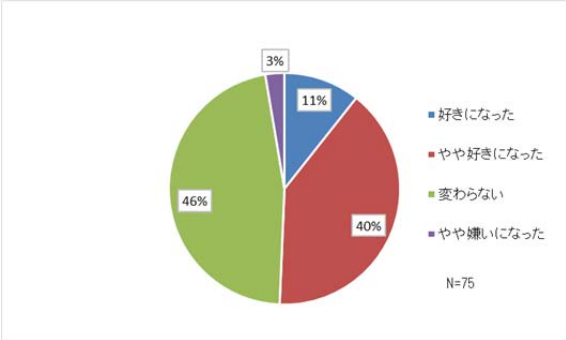

図-10　授業を受けて地元が好きになったか

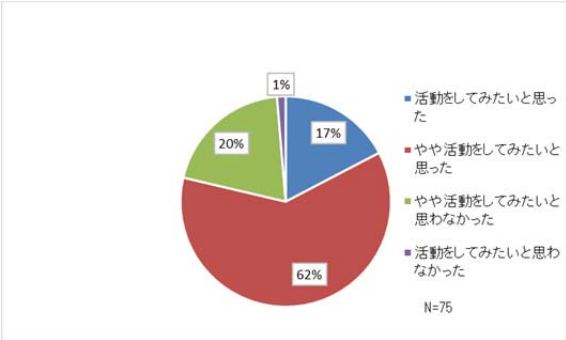

図-11　授業を受けて地元のために活動をしてみたくなったか

授業を受ける以前は，まちづくりへの関心がなかった生徒が多かった．しかし，授業を受けて，地元のために行動したいと回答している生徒が7割以上いたことから，地域への参画の意識が高まったことが予想される．一方で，地元への愛着について変わらないと回答する生徒が多くみられる結果となった．

(3) 受講後の地域への関心

図-12では，「授業を楽しく受けた生徒ほど，地域のために何か活動をしてみたいと思う」という仮説をもとに，「楽しく授業を受けたか」と「授業を受けて地域のために何か活動をしてみたいと思ったか」についてクロス集計を行った．その結果，受講したおよそ8割の生徒の地域の参加意欲が高まっていたことがわかった．中でも，楽しく授業を受けている生徒ほど，地域のために活動してみたいと思っている傾向がみられた．

図-13では，「授業を楽しく受けた生徒ほど地元が好きになるだろう」という仮説をもとに「楽しく授業を受けたか」と「授業を受けて、地元が今まで以上に好きになったか」について、クロス集計を行った．その結果，「楽しかった」と回答する生徒ほど、地元が好きになっていることが分かる．

図-14では，「地元が好きになった生徒ほど地元のために活動したいと考える」という仮説をもとに「地元のために何か活動してみたいと思ったか」と「地元が好きになったか」についてクロス集計を行った．その結果，地元が好きになった生徒ほど，地元で活動をしたいと思っている．以上のことをまとめると，「まちづくり学習」を楽しく受講した生徒は，地域参加への意欲が向上していること，地域への愛着を醸成させる効果があると思われる．

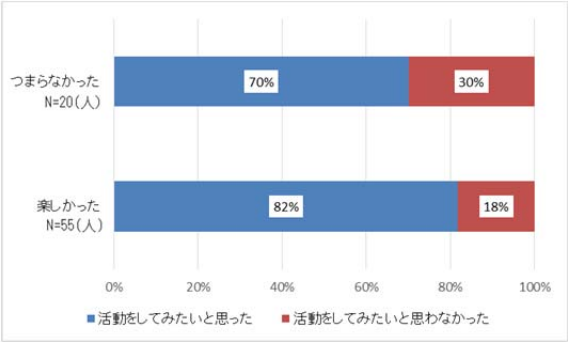

図-12　授業の楽しさと活動意欲

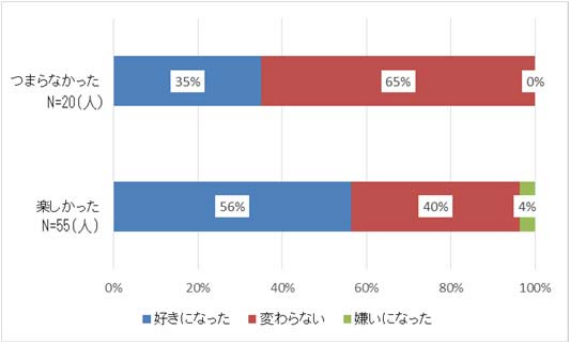

図-13　授業の楽しさと地元が好きになったか

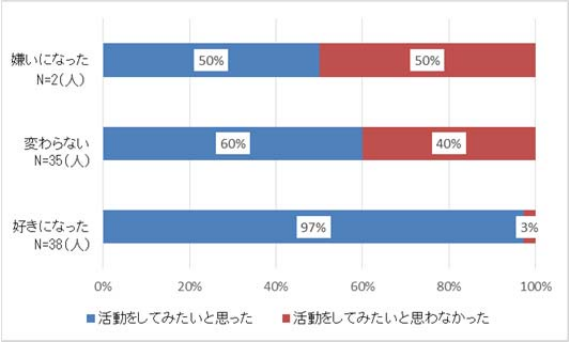

図-14　地元が好きになったかと活動意欲

(4) 進路選択

図-15に，卒業後の進路選択の際に重視したことを示す．結果，「やりたいことができること」と回答した生徒が最も多く，64人であった．次いで「自分の能力が活かせること」が多く，63人であった．

図には示していないが，「やりたいことができること」と回答した生徒の中で，「地域に貢献できること」と回答した生徒は36人，「自分の能力が活かせること」と回答した生徒の中で，「地域に貢献できること」と回答した生徒は35人であった．進路選択について，自己実現したいと考えているおよそ半数の生徒が，地域貢献についても視野に入れていることがわかった．

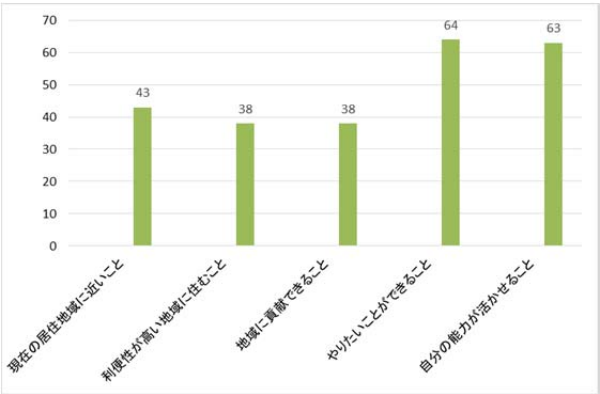

図-15　卒業後の進路選択で重視したこと

6. おわりに

本研究では，岩手県盛岡市の高等学校に通う商業系学科の3年生を対象に，自己成長や，地域への関わりについて調査を行った．本件研究で得られた成果を以下に示す．

・相手に考えを伝えたり，相手の考えを聞く能力が培われた．
・授業を受けて，地域活動への参画意識が高まった生徒は8割おり，地元のことが好きになった生徒は，約5割だった．
・「まちづくり学習」を楽しく受講した生徒は，地域参加への意欲が向上している．
・進路選択について，地域貢献を視野に入れている生徒のほとんどが，自己実現したいと考えている．

以上のことから，「まちづくり学習」をすることで，発信能力や傾聴力が向上し，自己成長させることが期待できる．また，地域への参画意識が向上したことから，地域人材の育成に有効である可能性が示された．

進路選択において，地域貢献を視野に入れている生徒は，自己実現も重視している．地元志向の生徒を増やしていくことは，地域人材を育成するだけでなく，生徒自身の自己実現に結びつくのではないか．今後のまちづくり学習では，自分の能力を地域にどのように活かしていくかを考え，生徒の進路選択の幅を広げることが課題となるのではないだろうか．

参考文献

1) 中川義英，赤松宏和，片石圭介:中学校における「まちづくり学習」の実践と教員との協働，土木計画学研究・講演集，27巻，2003.
2) 三輪千夏，尹祥福，中川義英:小学校におけるまちづくり学習のあり方，土木計画学研究・講演集，16巻，pp.61-68，1999.
3) 福井隆志，赤松宏和，中川義英:中学校教育における「総合的な学習の時間」への「こどものまちづくり学習」導入に向けた基礎的研究，土木計画学研究・講演集，24-2巻，pp.865-868，2001.
4) 辻喜彦，出口近士，吉武哲信:小学校の総合学習時間を活用したデザイン教育とまちづくりの連携の可能性に関する考察－宮崎県日向市立富高小学校における「日向市活性化塾」を題材として－，都市計画論文集，No.42-3，pp.199-204，2007.
5) 野澤千絵:市民のためのまちづくり学習の効果と課題に関する研究－全国人口1万人以上の自治体主催のまちづくりリーダー・コーディネーター養成講座を対象に－，都市計画論文集，No.40-3，pp.559-564，2005.
6) 安藤真理:子供を対象とした「まちづくり学習」の学校教育における展開の可能性に関する研究－横浜市の取り組みの分析を通して－，住まい・まち学習実践報告・論文集5(住宅総合研究財団)，pp.109-114，2004.
7) 岩手県立大学：ふるさといわて創造プロジェクト https://www.iwate-pu.ac.jp/coc/index.html